

総合人間科学 数 学

1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在
教授	1 人
病院教授	0 人
准教授	0 人
病院准教授	0 人
講師（うち病院籍）	0 人 (0 人)
病院講師	0 人
助教（うち病院籍）	0 人 (0 人)
診療助教	0 人
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人
医員	0 人
研修医	0 人
特任研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人 (0 人)
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技術職員（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	0 人
合計	1 人

2 教員の異動状況

古屋 淳（教授）（平成 26 年 4 月 1 日～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2 編 (0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編
そのインパクトファクターの合計	0.00
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編 (0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編 (0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編 (0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. Jun Furuya, Yoshio Tanigawa ; Mean values of the error term with shifted arguments in the circle problem, Notes on Number Theory and Discrete Mathematics, Volume 20, Number 2, Pages 44-51, 2014 [IF 0.00]
 2. Jun Furuya, Yoshio Tanigawa ; On integrals and Dirichlet series obtained from the error term in the circle problem, Functiones et Approximatio Commentarii Mathematici, Volume 51, Number 2 , 303-333, 2014 [IF 0.00]
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総説

(4) 著書

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 26 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(120 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

代表：古屋淳、課題名「ディリクレ級数の種々の性質とその関連分野の研究」、基盤研究（C）
課題番号 26400030（平成26年4月～平成29年3月）

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	0 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 26 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 円問題および一般約数問題の拡張における誤差項の明示公式の導出について

生成関数とその導関数に置き換えた円問題、および、一般約数問題における誤差項の考察を行った。とくにそれら誤差項の表示公式、および、上からの評価についての考察を行った。これらは約数問題における同種の拡張の類似物の考察になるのだがこれらの場合、特に円問題の場合には今まで適用できていた微分法が適用できなかつたり、非常に多くの項が出てきてしまうなどの問題が複雑になる。これらの問題点を解消しつつ成果を得た。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道